



〈H28101121〉

注 意 事 項

- 1 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
- 2 問題は2～9ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 3 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
- 4 マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははっきりとマークすること。訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。また、マークシートに消しゴムのかすを残さないこと。
- 5 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- 6 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
- 7 いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

マークする時	● 良い ● 悪い
マークを消す時	○ 良い ○ 悪い

(一) 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

自然現象を考えるとときには、**A** 人間との対比や推測を持ち込まず、客観的に物事をとらえなければいけないという教えは、けつして間違っているわけではありません。しかし、どうやら人間は、この教え自体を「情緒的」に解釈するきらいがあるようです。細胞のような複雑なものについて考えるとき、**A** 人間と比較してならないのはその通りなのですが、同じ意味で、**A** 分子や原子と比較してもいけないのです。

「複雑な現象は素過程に分解して理解せよ」という教えは正しいのですが、この教えはけつして「細胞を知るためには、分子を知らなければならぬ」といつているわけではないのです。細胞の構造や機能を知るためには、分子の知識が大きく役に立ちますが、^甲それらを部品とする細胞そのものを知るためには、むしろ細胞をそれ以上分解してはならないのです。

たとえば、猫を理解しようとするときに、その毛の成分を分析し、筋肉と関節と猫の動きの関係を調べ、目の構造を観察すれば、猫の成り立ちについて多くの知見を手に入れることができます。しかし、この見方では、猫の可愛らしさ、猫の精悍な野生の動き、人にゲイ合¹しない猫の気高さなど、一つの全体としての猫の **X** は理解できません。ふつう私たちは、全体としての猫の性質を理解したうえで、次の興味として、「猫のあのしなやかさはどうして生まれるのか」と考えて、猫の筋肉と関節のつながり方を調べようと考えるのでした。

I 問題は、細胞を観察することが、猫を観察するよりもはるかにむずかしいということです。訓練を受けて観察の技術を身につけても、動きが小さく遅く、身体もろくに見えず、物言わぬ細胞の時々の気持ちや意図は、おおいに「解釈」や「推測」に頼らざるをえません。ここに「科学的考え方」²との不キョウ和音が生まれるのです。しかしこの状況は、実は、複雑なものに一般的にそなわった宿命のようなものです。今、猫が物陰で身を低くして何かを見えています。大部分の人間は、猫のこの姿勢を見ただけで、この猫がスズメかトカゲのような小動物を狙っていると考えます。しかし、猫は、本当は、落ち葉と遊んでいるだけかもしれないし、何かから身を隠しているのかもしれないのです。

人間についても同じです。子どもがランドセルを背負って、いつものように学校に向かっています。しかし、この日に限り、この子は学校の先のおばあちゃんの家に向かっているのかもしれないし、おばあちゃんが危篤で、母親はすでにそっちに行っていて、今日は一日おばあちゃんの家で勉強するつもりなのかもしれないのです。それにもかかわらず、私たちはランドセルの子どもを見ると、学校に行く途中だと決めつけます。その可能性が一番高いという知識を皆で共有しているからです。

II そして、この議論でもっとも重要なことは、細胞も人間や猫と同じ「複雑なもの」の部類であって、無生物に対するのと同じ「科学的方法」で扱うのは間違いだということです。細胞も、原子や分子と同じように、しかるべき機器や技術を用いないと見ることができませんし、その機器や技術は化学や物理学の研究の成果にもとづいて作られています。 **B** 細胞を原子や分子と同じように扱わなければならないと考えるのは、あまりに短絡的、情緒的に過ぎるのです。

細胞を理解するうえでもう一つ重要なことは、推測や解釈を恐れずに細胞に接近する方法の手本は、物理・化学的な考え方や手法（科学的手法）にあるのではなく、人間や動物を観察し、解釈し、記述する生態学や行動学的手法（擬人的手法）にあるということです。

ある細胞が培養皿の表面をある速度で移動している場合を考えてみましょう。これを「科学的」に記述すると、「この細胞はある方向に葉状仮足を形成し、その表面と培養基質との間にフォーカルコンタクトと呼ばれる構造を作って身体を固定したうえで、葉状仮足に向かって細胞質を流動させることでアメーバ運動を起こして、基質上を平均毎分10ミクロンの速さで移動している」ということになります。 **C**、「擬人的」に記述すると、もっと簡単に「この細胞は、培養基質上を歩き回っている」と表現することができます。

この二つの表現の効果を比べてみましょう。前者の表現は、学問的にきわめて正確に事実を言い表していますが、これを正確に理解できる人間は、専門家だけです。それに対して後者の表現は、一見不正確に思えるし、細胞が「歩き回る」とは何事だ！と叱られかねません。ところが **D**、後者の表現は、細胞についてあまり知識のない人間にも、

「ある細胞」という生き物があり、それは「物に取りついた状態で移動する方法」を持ち、その細胞にとって「ふつうの速さ」で移動しており、とくに「どこかに向かっているというわけではない」らしい、というくらいのが伝わります。後者の表現のほうが、直観的なレベルでの伝達力があるかに大きいといえます。この表現に触れた一般の人が、この細胞は「二足歩行」をするらしい、と誤って考える可能性はきわめて低いのではないのでしょうか。

II

直観的なレベルでの伝達力が大きいということは、**Y** を案にさせる意味があります。先の「科学的記述」は、はじめに理解しようとして聞いて、理解できた人を、聞き終えた時点で「あー、そうなのか」と満足させてしまう傾向があります。理解することに、エネルギーを費やしているのです。それに対し、「擬人的記述」を聞き終えた人は、「それで？ この細胞は、なぜそんなことをしているの？」とか「この後、この細胞はどうなるの？」というような、次の段階への思いを抱かせられる傾向があります。内容がわかりやすいからです。

IV

そしてこのことは、専門外の人間にとつてだけでなく、本気で細胞を理解しようとする研究者にとつても、重要なことです。直観的に理解しやすいということは、共感しやすいということであり、共感しやすい事象は、脳の中の同じような領域の記憶や考え方を呼び出す力を持っています。深く共感できた物事のこの **Z**こそが、私たちの創意のみなもとなのではないかと、私は思っています。

(団まりな『細胞の意志』より)

問一 傍線部1と2にあたる漢字がカタカナ部分に使われている語をそれぞれ次のア～オから一つ選び、その解答欄にマークせよ。

- | | | | | | | | | | |
|-----|--------|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|
| 1 ア | 技ゲイ | イ | 捕ゲイ | ウ | ゴウ健 | エ | ゲイ撃 | オ | ゴウ華 |
| 2 ア | 即キョウ演奏 | イ | 相互キョウ力 | ウ | キョウ化合宿 | エ | キョウ争原理 | オ | キョウ悪犯罪 |

問二 空欄 **A** に入るもつとも適切なものを次のア～オから選び、その解答欄にマークせよ。

- ア くわしく イ なるべく ウ つとに エ はつきり オ みだりに

問三 空欄 **B** **D** に入るもつとも適切なものを次のア～カから選び、その解答欄にマークせよ。(同じものを二度用いてはならない)

- ア ひるがえつて イ よく考えると ウ ややもすれば
 エ だからといって オ これに対し カ それはともかくとして

問四 空欄 **X** **Z** に入るもつとも適切なものをそれぞれ次のア～オから選び、その解答欄にマークせよ。

- | | | | | | | | | | |
|-----|-------|---|--------|---|-------|---|--------|---|-------|
| X ア | エピソード | イ | キャラクター | ウ | メカニズム | エ | ダイナミズム | オ | ミステリー |
| Y ア | 思考 | イ | 推論 | ウ | 実証 | エ | 想念 | オ | 解析 |
| Z ア | 発見力 | イ | 想像力 | ウ | 推察力 | エ | 直感力 | オ | 啓発力 |

問五 左の枠内の文章は、本文中の I ↓ IV のどこかに入るものである。もつとも適切な場所を次のア～エから選び、その解答欄にマークせよ。

このように、複雑な現象に関して、私たちはしよせん解釈や推測で対応しているに過ぎません。このような対応で大過なく過ごせるのですから、それでかまわないのです。

ア I イ II ウ III エ IV

問六 傍線部甲「それらを部品とする細胞そのものを知るためには、むしろ細胞をそれ以上分解してはならない」の理由としてもつとも適切なものを次のア～オから選び、その解答欄にマークせよ。

- ア 細胞を分解しても細胞の複雑さは理解できないから。
- イ 細胞を分解しても細胞内の素過程は解明できないから。
- ウ 細胞を分解すればするほど細胞が持っている全体性は失われるから。
- エ 細胞を分解せずに観察する方が細胞の構造や機能がよくわかるから。
- オ 細胞を分解しても細胞の構造や機能を正確に知ることはできないから。

問七 この文章を説明する記述として本文の内容に合致するものを次のア～カから二つを選び、その解答欄にマークせよ。

- ア 自然現象を考えるとときに重要なのは客観的方法ではなく主観的方法である。
- イ 細胞も猫も人間も、行動を俯瞰みかん的に見れば何をしているのか理解できる。
- ウ 擬人的な表現は人々に共感をもたらすというメリットがある。
- エ 直観的なレベルで伝達することが複雑な現象を正しく把握する第一歩である。
- オ 細胞は本当は歩き回っているわけではないのでそう思い込むには共感力が必要である。
- カ 複雑な現象を理解するには、まず現象を素過程に分解し、その後で再構成すればよい。

(二) 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

私たちは物に対する哀悼からはじめなければならぬのではない。尊敬すべきあるいは身近な死者に対しては、私たちは強いられるまでもなく深い追悼を捧げることができ、現にしている。それすらなくなった時には、いよいよ本場に「人間の消滅」ということになるだろう。その死せる者への哀悼を、物に対して、あるいは同じことだが、その物と人間との関係に対して、向けるべきではないか。そして一言でいってしまえば、現在において批評が可能であるとするれば、それは追悼行為としてではないか。

かつて人間は、山林原野河海から路傍の石にいたるまで、物的世界との相互交渉の中で生きてきた。生きるとはその交渉のことであり、物的資源の摂取獲得が同時に、精神的糧としての対応物を含むところに、その相互性が表われていた。たとえば生存に不可欠の水との付き合いが、蛇神を登場させる時そこには、洪水その他の災厄と背中合せで現われる河水を、灌漑^{かんがい}その他の用水として活かしたいとする人々の思いが表現されていたであろうし、雷神としての表象には、日神と結婚して「稲妻」として田に降り立つという **A** が祈願されていたであろう。ミクマリ（水分り）はいつでも神的配分の問題でもあった。

それでは、現在の水についてはどうか。工業用水はいわずもがな、日常の生活用水についても、「水道」とはいうもののその道程は私たちの生活過程に組み入れられてはいない。光熱費という家計の費目においてのみ抽象的なシ¹態を現わすにすぎない。水が流れ出る「蛇口」は、もっぱらその製品としての形を表現するのみであって、むしろ蛇神の痕跡はあるはずもない。水道の凍結断水は、そのまま私たちの想像力の中絶を示すだけである。生きた相互交渉は終わつたというほかない。生存に不可欠の水において既にしかり。他の諸々の物は、あるいは消滅し変形し加工され、あるいは **B** されつつある。哀悼の感覚をもって対すれば、その無惨な現場を身近にみることもできるはずである。

『資本論』におけるマルクスのように物たちに自らを語らせることができれば、いまやそれは交換価値としての倒錯した関係を語るにとどまらず、瀕死の呻^{うな}き声をあげるかもしれない。あるいは、人間たちに対する蔑みにみちた一瞥^{べつ}をくれるだけで黙するかもしれない。そして、その呻きと沈黙とは正確に、私たちの生の有様を映し出しているはずである。物がその故郷を失い商品や製品へとすがた形を変えられるとき、その「変態」は、たとえばいも虫から蝶になる生物の変態とは異なつて、購買者ないし消費者としての人間の眼を驚かすものではない。その商品や製品の形態に私たちはたちまち馴染^{なじ}んでしまう。すなわち、物の変形が人間自身の変形を促すのである。物を生産するとは、まさしく「対象のために主体を生産する」ことなのでもあった。

しかしその突破口もまた、その変形と **B** の現場を離れてはありえないだろう。たとえば、「廃物」つまり商品世界の敗残物や脱落物を用いて作られたバラックが、建売住宅にない材質感と存在感を逆説的に獲得することがあるように、私たちの社会において、滑らかな快適さと生きた経験とは **C** する。この事実は、現在の可能な経験が失敗や逸脱を一つの核として含みもつことを示唆するとともに、商品世界からの疎外物との接触交渉が、私たちの生の疎外態を認識させる、だけでなく、束の間^{つかの間}にせよそれを切開^{きり}しうることをも示している。転倒した交換世界が「疎外の疎外」を通して垣間^{かきま}見える物の二重性が、人間自身の二重性として現われることによって、その分裂のうち「脱出口」を指し示すのである。それを抜きにして救済や復権を語るのにはハッピーに過ぎるだろう。

世界の「再生」を求めて、すりへつた魂^{たま}を復活^{くわくたつ}するための「魂振り」^(注1)を様々に企図するのは、むしろ間違っていないとしても、肝心の「魂」が行方不明になりつつある状態では、死に瀕した物たちの末路に眼を²こらすことを通じて、かれらとの相互関係において生きられてきた私たちの生の現状を^ま頭らかにする以外にないだろう。つまり、物化^dした世界を自己切開^{きり}するには、瀕死の眼が必要なのだ。そうしてそれは、かつてヴァレリー^(注2)が示唆したように、もつとも根柢^{こんてい}的な意味において「考える」ということにはかならない。「この世界の外部で、眼を、存在と非存在との境にすえている人間のまなざし——これが、考える人間のまなざしだ。」蘇生^{そせい}を思えばこそ、むしろ死の契機と局面と経過とを注視しなければならぬのである。私たちのありうべき批評行為が **D** に至らざるをえない、という所以^{ゆえん}である。

(市村弘正『名づけの精神史』より)

注1 「魂振り」とは魂に活力を与え再生させる呪術。またその呪術を行うこと。

注2 「ヴァレリー」はフランスの作家、詩人、小説家であるポール・ヴァレリー（一八七一一一九四五）のこと。

問八 傍線部1と2にあたる漢字がカタカナ部分に使われている語をそれぞれ次のア～オから一つ選び、その解答欄にマークせよ。

- 1 ア シ肢 イ シ勢 ウ シイ歌 エ シ界 オ シ末
2 ア ギョウ固 イ コ別 ウ コ称 エ ギ間 オ チヨウ罰

問九 空欄

A

く

D

に入るもつとも適切なものをそれぞれ次のア～オから選び、その解答欄にマークせよ。

- A ア 豊穰 イ 祝福 ウ 災厄 エ 儀式 オ 信仰
B ア 反復 イ 殺害 ウ 欠損 エ 補完 オ 修復
C ア 相関 イ 順応 ウ 反転 エ 正比例 オ 反比例
D ア 沈黙 イ 諦観 ウ 救済 エ 哀悼 オ 再生

問十 傍線部 a「精神的糧としての対応物」の例として適切なものは枠内の1～3のうちどれか。次のア～キから一つ選び、その解答欄にマークせよ。

- 1 蛇神 2 雷神 3 ミクマリ

- ア 1 イ 2 ウ 3 エ 1と2 オ 1と3 カ 2と3 キ 1と2と3

問十一 全体の論旨から判断して、傍線部 b「物を生産するとは、まさしく「対象のために主体を生産すること」の意味としてもつとも適切なものを次のア～オから選び、その解答欄にマークせよ。

- A 人間と生産され変容する〈物〉とが倒錯した関係にあるということ。
イ 〈物〉の生産は、根源的にいうと人間のためのものであるということ。
ウ 対象物である〈物〉なくして、主体である人間は存在しえないということ。
エ 対象物としての〈物〉の生産に、人間は無関心ではいられないということ。
オ 〈物〉が消費のための商品に変化すると、人間も変容を余儀なくされるということ。

問十二 傍線部 c「物の二重性」の意味としてもつとも適切なものを次のア～オから選び、その解答欄にマークせよ。

- A 物の疎外がもたらす人間の窮状とそこから脱出する可能性
イ バラックにも建売住宅にもなり得るような二面性
ウ 疎外されいながら人間を疎外するという背反性
エ 存在すると同時に非存在でもあるという抽象性
オ 変形していても本質を失わないという固定性

問十三 全体の論旨から判断して、傍線部d「物化した世界を自己切開する」の内容に合致するものを次のア～オから一つ選び、その解答欄にマークせよ。

- ア 廃物やごみを再生させる方法を模索し、それらに魂が宿っていたころの生活を取り戻すこと。
- イ 物的世界と生きた相互交渉がなくなったことを自覚し、現状を見つめ考察すること。
- ウ 未来をもたない〈物〉の現状に同情し、それらを蘇生させようと努力すること。
- エ 瀕死の状態にある物的世界に向かって、自ら切り込んでいくこと。
- オ 硬直した状況を打開するために、世界の再生を企図すること。

問十四 この文章を説明する記述として、内容に合致しないものを次のア～カから二つ選び、その解答欄にマークせよ。

- ア 商品として流通できない欠陥品を手にするという体験を経て、私たちは自分たちの〈生〉に問題があることを自覚し、それに対処しようとする。
- イ かつて人間は、蛇神、雷神といった具体的なイメージを通して、自然界への畏敬の念を持ち、天災を甘んじて受けとめることができた。
- ウ 〈物の死〉というメタファーを、現実の〈生〉に反映させることによって、〈人間の消滅〉を回避する希望が生じる。
- エ 現代社会において、本来あった自然との相互関係は〈終わった〉とみなされ、私たちは生活の中で、〈物〉を消費するのみである。
- オ 現在の我々の生活においても、〈物〉との相互交渉の痕跡はあるのだが、それを改めて認識することは難しい。
- カ かつて人間は、物的世界との相互関係を通して、物的資源の獲得とともに精神的豊かさも享受していた。

(三) 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ある人語りてはいはく、

「この縁ありて、井手といふ所にまかりて、一宿つかまつりたること侍りき。所のありさま、井手川の流れたる体、心も及び侍らず。かの井手の大臣の跡なればことわりなれど、川に立ち並びたる石なども十余丁ばかり、さのみやは遠く立て置かれけむ、石Aごとにただなほざりのこととは見えず、わざと立てたるやうになむ侍りし。

そこに古老の者の侍り a を語らひて、昔のことを尋ね侍りしついでに、
「井手の山吹とて名に流れたるを、いと見え侍らぬは、いづくにあるぞ」
と尋ね侍りしかば、

B 「さること侍り。かの井手の大臣の堂は、一年ひとね焼け侍りに b。その前におびたたく大きな山吹、むらむら見え侍りき。その花の輪は小土器の大きさにて、幾重ともなく重なりてなむ侍りし。それをさやうに申し置きて侍るにや。また、かの井手川の汀につきて隙もなく侍り c ば、花の盛りには黄金の堤などを築き渡したらむやうにて、他所にはすぐれてなむ侍り d。されば、いづれを申しけるにか、今分きがたく侍り。ただし、下郎の言ふかひなく侍ることは、かく名高き草とてところもおき侍らず、田作るには、草を刈り入れたるがよくいでくると申して、何ともなく刈り取り侍りしほどに、今は跡もなくなりて侍る。

それにとりて、井手のかはづと申すことこそ、やうあることにて侍れ。世の人の思ひて侍るは、ただ蛙をば皆かはづといふぞと思ひて侍るめり。それも違ひ侍らず。されど、かはづと申す蛙は、他にはさらに侍らず、ただこの井手川にのみ侍るなり。色黒きやうにて、いと大きにもあらず。世の常の蛙のやうにあらはに跳をり歩くことなどいはず。常には水にのみ棲みて、夜ふくるほどにかれが鳴きたるは、いみじく心澄み、ものあはれなる声にてなむ侍る。春夏の頃、かならずおはして聞オき給へと申し侍りしかど、その後とかくまぎれて、いまだ尋ね侍らず」となむ語り侍りし。

このこと心にしみて、いみじく覚え侍りしかど、かひなくて三年にはなり侍りぬ。また年だけは歩びかなはずして、思ひながらいまだかの声を聞かず。かの登蓮が雨もよに急ぎ出でけむ注上には、たとしへなくなむ。これを思ふに、今より末さまの人は、たとひおのづからことのためよりありてかしこに行き臨みたりとも、心とどめて聞かむと思へる人も少なかるべし。人の数寄と情とは年月に添へて衰へゆくゆゑなり。
〔無名抄〕より〕

注1 「かの登蓮が雨もよに急ぎ出でけむ」とは『無名抄』・『徒然草』に載る、「ますほの薄」という語の意味を雨の中、遠くに調べに行つたという話を指す。

問十五 空欄

オから一つ選び、その解答欄にマークせよ。
には過去の助動詞「き」が入る。その活用の組み合わせとして適切なものを次のア

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|----|---|---|---|---|---|---|----|---|----|---|---|
| ア | a | き | b | し | c | しか | d | き | イ | a | し | b | しか | c | せ | d | し |
| ウ | a | しか | b | き | c | しか | d | き | エ | a | し | b | き | c | しか | d | し |
| オ | a | き | b | しか | c | せ | d | し | | | | | | | | | |

問十六 傍線部A「石ごとにただなほざりのこととは見えず」の意味としてもつとも適切なものを次のア～オから選び、その解答欄にマークせよ。

- ア それぞれの石が自己主張をしていない。
- イ どの石もいい加減な並びには見えない。
- ウ それぞれの石が遠くに置かれている。
- エ 石ごとにそれぞれ種類が異なる。
- オ どの石も捨てられているようである。

問十七 波線部①「いと見え侍らぬ」、波線部②「見え侍りき」の動作主体をそれぞれ次のア～オから一つ選び、その解答欄にマークせよ。

ア ある人 イ 筆者 ウ 下郎 エ 世の人 オ 古老

問十八 傍線部B「さること侍り」で始まる会話はどこまで続くのか。その末尾にあたる語句を、本文中の二重傍線部ア～オから選び、その解答欄にマークせよ。

問十九 傍線部C「いづれを申しけるにか、今分きがたく侍り」の「いづれ」が指す内容としてもっとも適切なものを二つ次のア～オから選び、その解答欄にマークせよ。

ア 田を作るために刈り取られた山吹 イ 井手川沿いの山吹
ウ 井手の大臣のお堂前の山吹 エ 光り輝く黄金の堤
オ 名高い井手の大臣

問二十 傍線部D「やうあることにて侍れ」の意味としてもっとも適切なものを次のア～オから選び、その解答欄にマークせよ。

ア 誤解があることでございます。 イ めったにいないものがございます。
ウ 使い道があるものがございます。 エ 風流なことでございます。
オ 理由があることでございます。

問二十一 傍線部E「たとしへなくなむ」の説明としてもっとも適切なものを次のア～オから選び、その解答欄にマークせよ。

ア 登蓮とある人を比較して、井手のかはづを聞いていないある人をけなす。
イ 登蓮と自分を比較して、井手のかはづを聞いていない自分をけなす。
ウ 登蓮とある人を比較して、井手の山吹を確認していないある人をけなす。
エ 登蓮と自分を比較して、井手の山吹を確認していない自分をけなす。
オ 登蓮と後の世の人を比較して、井手のかはづを聞かないだろう後の世の人をけなす。

問二十二 本文の内容と合致するもっとも適切なものを次のア～オから選び、その解答欄にマークせよ。

ア 昔は風流を一途に求める人がいたが、今後はそうした人は少なくなる。
イ 身分が低い者が言い伝えていることは、信じるに値しないものが多い。
ウ 「井出のかはづ」は蛙ではない、別種の水辺の生物である。
エ 風流を解する心は、まず風流な場所を訪れることよって生まれる。
オ 風雅を愛する心は、年齢を重ねることに薄れてゆく定めにある。

〔以下余白〕